

向山小学校のESD活動

<活動の概要>

- ・地域の「ひと」「もの」「こと」との関わりの中でESD学習を深めることで、児童が課題を自分事としてとらえ、身近な問題について探求していく中で、自分ができることを考え、行動する力を育てることができると考えて次の実践を行った。

・活動の実際

①「自然のプレゼント ～ぼくたちムカイヤママスター～」(3年生)

3年生が、校区内にある梅林公園へ出かけて梅取りを行った。その際、豊橋市役所職員の方々の協力をいただき、安全に安心して梅取りができた。後日、栄養教諭や温室園芸組合の赤しそ農家の方々の指導のもと、大量の梅を使って、「梅干し」づくりを行った。地域の素材を使って活動を行ったことで、地域の自然への感謝の気持ちが高まり、どの子どもの顔にも笑顔があふれていた。



【梅干しづくりに夢中に取り組む児童】

② 防災について考えよう(4年)

総合的な学習で、向山校区や学校内の防災施設について調査活動を行った。インターネットや書籍を利用したり、現地調査をしたりして、情報収集を行い、防災について関心を持ち、自分の生活を見直し、防災に関する意識を高めた。また、自分たちが調べた内容を踏まえ、自分の防災への思いを総合の学習の時間にまとめ発表した。



【地域の防災設備を調査する児童】

③向山SDGs 環境と福祉 ～住みよいまちにするために～(5年)

野外教育活動でカレーを食べるときに使った「バガス」の容器から環境に興味を持ち、容器を作成する企業の話を知ったり、地球温暖化の仕組みを専門家から学んだりした。そして、地球環境の悪化について全校や保護者へアンケートを実施した。自分たちにできることを考え、学んだことを発表し、節電や節水、紙のリサイクルなどを呼びかけた。また、高齢者や盲導犬の利用者の学習を通して、向山校区が住みよいまちになってほしいと願うようになった。



【バガスの容器を土に返す児童】

